



「親知らず」は抜いた方がいいの？

「親知らずは抜いた方がいい」とよく言いますが、実際はどうなのでしょう？

今回は「親知らず」は抜くものなのかどうかについてお話ししていきたいと思います。



まず、親知らずを抜くかどうかは、親知らずが「歯として噛む働き」をしているか、いないかで判断することが多いでしょう。

例えば、親知らずと噛み合わさる歯が無かったり、斜めに生えてきて満足に噛むことができないのに、虫歯や歯周病になって腫れて痛くなる…。

こういった場合、親知らずは「歯」としての機能よりも、腫れたり痛くなったりするためだけに存在していることになりまますから、抜いてしまう可能性は高くなるでしょう。

「親知らず」は、こういった場合 抜くことがあります

親知らずは抜く必要があれば抜いた方が良い場合もあります。

もし、以下のようなことが当てはまる場合は、抜く可能性が高くなるでしょう。



腫れが繰り返される場合

一度親知らず周辺の歯ぐきが腫れてしまうと、治まってもまた腫れることがあります。

もし、腫れが繰り返されるようなら抜いた方が良いでしょう。



物が挟まりやすく、隣の歯が虫歯になりやすい場合

親知らずよりもその隣の歯に悪い影響を与えてしまう場合、隣の歯の保護を優先して抜いた方が良いでしょう。

親知らずの虫歯が大きく、治療器具が入らない場合

親知らずは一番奥にある歯なので、治療器具がうまく入らず治療が困難な場合、抜くことが有効な治

療方法でもあります。

全体の歯並びに悪い影響が出てしまう場合

親知らずは生えてくるスペースが小さいと、他の歯を押し出して生えてくる時があるため、正常な歯並びを乱してしまうこともあります。なので、そういった場合は歯並びを保護するために抜いたほうが良いでしょう。

片方しか生えていない場合

正常に親知らずが生えてきたとしても、噛み合わさる歯が無いと歯ぐきを噛んでしまい、歯ぐきの炎症を引き起こすこともあります。そういった場合は抜いた方が良いでしょう。



ただし、「親知らず」が虫歯になってしまった場合でも、歯として噛むことができ、虫歯もさほど大きくなければ治療をして残す場合もあります。

このように、抜かれることになる「親知らず」の多くは「噛む」という本来の働きをせず、口の中で問題ばかり起こしている場合が多いのです。

もちろん、全ての「親知らず」を抜いてしまうわけではありません。痛みや腫れがなかったり、他の歯に悪い影響を与えないのであれば、抜かずにそのまま様子を見ることになりまます。

もし、「親知らず」に痛みが出るようなことがあれば、早めに歯科医院でチェックを受けて確認してもらうことが大切です。